

会議名	令和2年度	開催日	令和3年3月25日(木)
	第2回台東区立図書館に関する意見交換会	時間	午後6時30分～7時10分
		場所	ZOOMによるオンライン開催
出席者	大串夏身委員長(昭和女子大学名誉教授) 野末俊比古副委員長(青山学院大学教授) 尾花達也委員(公募区民) 森本勝大委員(公募区民) 永田晴久委員(台東区社会教育団体協議会理事長、台東区写真連盟理事長) 酒井まり委員(台東区教育委員会事務局次長)		
配布資料	資料1 図書館の利用状況及び今後の方向性について 資料2 図書館情報システムプロポーザルの結果について		
内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 大串委員長</p> <p>3. 議事 (1)図書館の利用状況及び今後の方向性について ●資料1について、事務局から説明</p> <p>【委員長】 ただ今の説明について、質問・意見を聞かせてほしい。</p> <p>【委員】 2点ほど伺いたい。 まず1点目が、本を殺菌する機械の拡充とあったが、現状どの程度利用されているのか。 2点目が、オンラインでのイベントをこれから拡充するとのことだが、集客の部分とかが結構、難しいと思う。自分も仕事で行っているが、告知を見ていない人が多いと感じている。オフラインとオンラインをうまく組み合わせるのが重要であると考えており、例えば、密集対策として、中央図書館の前にある自転車置き場でテントを張って何かちょっとしたイベントを行ってもいいのではないかと。そして、そのイベントをオンラインにうまくつなげていくことで、利用者の増加を実現できるのではないかと。</p> <p>【事務局】 まず、書籍消毒機は中央図書館に1台設置している。利用頻度としては、1日1000人から2000人程度の入館者に対し、最大で1日100回程度、平均すると大体30回程度となっている。なお、この書籍消毒機の新型コロナウイルスへの効果については、まだ実証されていない、とメーカーから報告されている。この点は掲示を行い利用者に周知している。現状としては、雑菌やゴミなどを取る目的で設置している。</p> <p>【委員】 今後は各館にも設置することを考えているのか。</p> <p>【事務局】 中央図書館での利用がそれほど高い状況でもないため、新型コロナウイルスへの効果が実証されてから具体的に検討していくことになるかと考えている。</p> <p>【委員】 書籍消毒機はかなり高額なものなのか。拡充したあと結構経費がかかるのではないかと。</p>		

【事務局】

リースで設置しているので、継続的に費用はかかることとなる。
続いて2点目のイベントについて、図書を使うものになると、やはり対面での実施が効果的であると考えている。また、オンラインでは著作権の問題もあるため、感染対策を徹底した上でイベントを実施し、どうしても対面でできない時には、うまくYouTubeなどを活用していきたいと考えている。

【委員長】

書籍消毒機は図書館によってはかなり前から導入されていたが、消毒ではなく滅菌・減菌という目的を表に出していた。最近ではコロナ対策として議会でも議論される自治体が増えてきている。私も図書館で働いている当時は、決まりで必ず手を洗うように言われていた。そのように図書館には、常に清潔にするよう努力することが求められている。

【副委員長】

私の勤務している大学の図書館でも、その書籍消毒機を設置している。ただ、紫外線による消毒なので本は傷んでしまうようである。ただ、このコロナ禍では消毒できる安心感の方が上回っていると感じる。
資料1の説明にあった統計数字については、このように分析しているのはいいことだと思うし、引き続きどのようなニーズがあるかという分析は続けていただきたい。その際、予約やOPAC検索件数が増えているという数字だけの情報ではなく、予約して借りるという利用方法にある程度満足しているのか、本当は図書館に滞在したいけどやむを得ずこのような利用をしているのか等、実際利用者がどのように感じているかの声を集めていく必要があると思う。
その声によっては「来館者が減ってもWebの利用が増えているから、図書館としては十分なサービス提供している」と説明することができる。そのデータの裏付けとなる利用者の声が拾えるといいのではないと思う。
また、大学でもオンラインか対面かという話があるが、学生の中には基礎疾患を持っていて、行きたくてもいけない学生がいる。その場合、大学ではハイフレックス(教室での対面授業に一部学生がオンラインで参加する形式)で、対面でもオンラインでもどちらでも授業に参加できるという対応を行っている。図書館でも同様に、来館とオンラインに同等のサービスが求められてくると思う。例えば、リモートで利用する方へのサービスとして電子書籍が一つ考えられるが、電子書籍数がまだまだ少ない。もしかしたら本の配送に経費を使った方がニーズに合うかもしれない。その辺りについて利用者の声や利用状況を細かく分析していくと、効率的な予算執行ができるのではないかと。

内
容

(2)図書館情報システムのプロポーザル結果について

●資料2について、事務局から説明

【委員長】

ただ今の説明について、質問・意見を聞かせてほしい。

【委員】

システムはパッケージのまま導入するのか。カスタマイズはどの程度考えているのか。

【事務局】

今回提案のあった事業者はそれぞれパッケージをもっていて、対応できないところをカスタマイズで対応していただく、ということでプロポーザルを実施した。今回優先交渉権者となった事業者のパッケージでは、こちらの要求に大半は対応しているが、本区の特徴である貴重資料の部分に関しては、カスタマイズ対応となる予定である。

【委員】

カスタマイズの機能は最初から選択して導入していくものなのか。色々検討して後でカスタマイズを加えていくこともあるのか。

【事務局】

最初は区が導入したい機能のうち、提案のあった経費の範囲内で対応可能なものがどれかを調整し、リプレースを進める。そこから外れたものや新たに導入すべき機能については、改めて実現の可能性や経費などを明らかにし、次期リプレースの機会などで導入を考えていく。

【委員】

今後、対応していくとあった座席管理システムなどは、別のシステムになってしまうのか。

【事務局】

優先交渉権者となった事業者は、今後ICTの活用を色々やっていきたい、との考えを持っている。現時点ではオプションやカスタマイズで対応する機能についても、今後パッケージ化される可能性もあり、バージョンアップ時に導入できる場合もある。事業者の開発計画とこちらが求める機能が合致すれば、うまく導入できることもあると考えている。

【副委員長】

Webによるレファレンスはどの程度のサービスを実施するのか。

【事務局】

レファレンスについては、現在使用しているフォーマットをベースにWeb上にフォームを作成することを考えているが、今後事業者と詳細を詰めていく予定である。

【副委員長】

大学図書館ではLINEやフェイスブックのメッセージを活用したチャットでのレファレンスが行われている。システムで行うのは若干ハードルが高いと思うので、幅広い年齢の方がよく使っているツールに対応していく、といった考え方もあった方がいい。特に今の若い人は電話よりもチャットの利用が多くなっており、企業のお客さま相談も、電話じゃなく、チャットになってきている。チャットだと1人が付き切りにならなくても、時間差が多少あっても成り立つので、図書館にとっても悪い選択肢ではないと思う。また、先ほど話のあった、来館しなくても図書館サービスがある程度提供できるというところにも繋がると思う。

【委員長】

青森市の図書館では、OPACの画面の下に小学校3・4年とか、中学生、高校生、大人といったボタンが並んでいて、それをクリックすると、例えば小学校3・4年生用の本が抽出することができる。子供たちの調べ学習とか、親が子供にどんな本を読ませたらいいかといった場合に、この機能で検索すると本を選びやすくなる。

事業者ではこのような使い方の発想がなかなか出てこないと思うので、図書館から提案して進めていくのがいいと思う。

(3)その他

【委員長】

他に、質問・意見がある方はいるか。

【委員】

新型コロナウイルス陽性者が発生したときの対策に向けた訓練などは行っているのか。

【事務局】

区の方で、新型コロナウイルス感染症の感染者が発生した際の情報伝達や消毒対応などの手順を定めているが、これまで訓練はおこなっていない。

なお、もし図書館の来館者から陽性者が発生し、保健所から同じ時間帯で来館していた方の情報を求められた場合に必要な情報を提供できるよう、入館票の記入をお願いさせていただいているが、これまで実際にその情報を使用したことはない。

【委員】

中央図書館では1日1,000人分の入館票が提出されると思うが、管理が大変ではないか。利用者カードで代用できればお互いメリットがあるのではないか。

内
容

【委員】

前回の会議のときに報告のあった、本を宅配サービスはどの程度利用されているのか。

【事務局】

登録者は7名で、利用は約70冊となっている。このサービスは、利用者が増えれば良いものではなく、必要な方に確実に利用していただくサービスと考えている。そのため、我々としては、広報たいとうや事業者への周知などを繰り返して行くことが重要であると考えている。

【委員】

施設に入所している人で利用している人もいるのか。

施設に入所している方には、こういったサービスがあることを知らない人もいるのではないかと思うので、情報がうまく伝わるようにすることが大切かと思う。また、このコロナ禍において外に出られなくなったことにより本を読む時間が増えたという人も多いので、色々な人に本が届けられるサービスができるといいかなと思う。

【事務局】

宅配サービスは対象を障害者等にさせていただいているが、先ほどの資料1で報告した通り、コロナ禍の状況で貸出数はそれほど減少していない状況となっている。本を読む環境を整えていくことは、引き続き検討していきたいと考えている。

【委員長】

自治体によっては高齢者施設に図書館員が出向いて行って読み聞かせを行っているところもある。また、認知症対策として、声を出して読むという取組を行っているところもある。

いろんなサービスを実施していくことで、それが利用者同士で話が伝わって、結果利用される方も多くなると思う。他に意見が無ければ、これで議事を終了とする。

内
容

4. 閉会